

# 経友会 ニュース 第10号

ご質問・お問合せ・メールのご登録は  
大阪市立大学 経友会  
keiyukai@econ.osaka-cu.sc.jp

2006(平成18)年3月15日発行

## 経友会総会が開催される 平成16年度決算、平成17年度事業計画及び予算を承認

昨秋のホームカミングディにあわせて11月3日午後、学術情報総合センター（杉本町）で総会を開催。木村 進 会長の挨拶に続き、来賓の松島 正博 経済学部長からご挨拶をいただいたあと、議長に福島 由堯氏（昭42卒）を選出し、平成16年度事業報告と会計決算報告を承認。続いて、同17年度事業計画案ならびに事業会計予算案を原案通り議決しました。



木村 進 会長



松島 正博 経済学部長

### ◎事業報告概要

#### (55周年記念シンポジウム開催)

平成16年1月から55周年記念事業委員会シンポジウム部会（部会長 龍口 篤夫氏 昭30卒）が企画・準備に取り組み、昨年11月3日経済学会との共催で「関西経済の復権と大阪市立大学に期待されるもの」をテーマとして市民公開のシンポジウムを開催しました。

その第1部で磯村 隆文 大阪市立大学名誉教授（前大阪市長）が「大阪の活性化と大阪市立大学に期待すること」と題して特別講演。そして第2部で堀 籠兒 早稲田大学大学院法務研究科教授、塩沢 由典 大阪市立大学大学院創造都市研究科長、小林 俊介（株）東芝執行役常務兼電力・社会システム副社長をパネリストに招き、惣宇利 紀男 大阪市立大学大学院経済学研究科教授をコーディネーターとして、白銀 久紀 大阪市立大学大学院経済学研究科助教授の司会でパネルディスカッションを開催しました。

#### (55周年記念誌発行)

また、平成16年11月から55周年記念事業委員会記念誌発行部会（部会長 山田 博利氏 昭30卒）が編集発行に取りかかり、翌17年2月に前記シンポジウムの討議内容を収録した記念誌2,000部を発行。経友会会員をはじめ、大学教員、在学生、院生、新入生等に配布し、市民の希望者にも無償で配布しました。

#### (その他)

平成16年10月から、経友会講座「産業経済論特講」開設委員会（委員長 久保 勇氏 昭32卒）が、経友会講座の平成17年度後期開講をめざして精力的に準備を進めました。その他、平成16年10月に海老塚 明教授の著書「コンヴェンション理論の射程」出版に対し助成金を贈呈したほか、12月に経友会ニュース第8号（A4版12ページ）を発行、また3月の卒業式には、経済学部優秀学生13名に対し表彰の副賞を贈呈しました。

## ◎平成16年度会計決算を承認

一般会計と55周年記念事業特別会計合わせて収入支出とも合計12,771,736円で、そのうち繰越金を除く単年度の収入合計は1,889,620円、同支出合計は、3,507,245円となり、その差、単年度の収支純計△1,617,625円は、前期繰越金から取り崩しました。

その結果、次年度への繰越金額は9,264,491円となりました。



福島由堯 議長

## ◎平成17年度経友会事業計画を承認

[平成17年度経友会事業計画案]

1. 経友会ニュースの発行  
夏号と新年号の2回発行
2. 経友会講座「産業経済論特殊講義2」の開設  
平成17年度後期 12講座（10月～2月）
3. 経済学部教員への出版助成  
教員の優秀論文出版への助成金交付 30万円
4. 優秀学生表彰副賞授与  
卒業にあたり優秀学生表彰の副賞を授与（前年度に準ずる）
5. 会員への情報伝達の合理化  
経友会会員のe-mail網の充実を図り、事務合理化と経費削減に努める
6. その他  
大阪市立大学国際学術シンポジウムの後援、同実行委員会事務局長の派遣  
学友会設立への協力と連携



久保勇 委員長

## ◎平成17年度事業会計予算を議決

一般会計と経友会講座特別会計合わせて、収入支出会計合計11,064,591円（事業費の支出純計額3,745,000円）の平成17年度予算案を原案通り議決しました。

(主な予算説明)

- ◎通信費／453,000円増は経友会ニュース発行を1回増の年2回とする。
- ◎印刷費／90,000円増は上記の理由による。
- ◎協賛・助成費／410,000円増は大学の国際学術シンポへの協賛金(500,000円)の計上によるが、この協賛金は不要となる見込み。
- ◎備品購入費／200,000円増は事務用パソコンの購入を予定。
- ◎特別会計繰出金／422,000円は全13回実施の経友会講座開設に伴う経費。



南部昌弘 事務局長

### 平成16年度経友会一般会計決算および平成17年度一般会計予算

#### 収入の部

| 科 目    | H16年度予算額   | 決 算 額      | H17年度予算額   |
|--------|------------|------------|------------|
| 前期繰越金  | 10,882,016 | 10,882,016 | 9,264,491  |
| 会費収入   | 1,800,000  | 1,745,620  | 1,800,000  |
| 前納会費収入 | 0          | 144,000    | 0          |
| 雑収入    | 0          | 0          | 0          |
| 受取利息   | 0          | 100        | 100        |
| 合 計    | 12,682,016 | 12,771,736 | 11,064,591 |

## 支出の部

| 科 目        | H16年度予算額   | 決 算 額      | H17年度予算額   |
|------------|------------|------------|------------|
| 通信費        | 350,000    | 283,904    | 803,000    |
| 印刷費        | 70,000     | 76,965     | 160,000    |
| 消耗品費       | 10,000     | 12,184     | 50,000     |
| 人件費        | 420,000    | 502,500    | 600,000    |
| 会議費        | 40,000     | 21,464     | 24,000     |
| 交通費・出張費    | 26,000     | 31,160     | 70,000     |
| 協賛金・助成費    | 700,000    | 621,650    | 1,110,000  |
| 講師等謝礼費     | 30,000     | 0          | 70,000     |
| 雑費         | 20,000     | 37,132     | 6,000      |
| 懇親会費       | 50,000     | 10,970     | 80,000     |
| 備品購入費      | 0          | 0          | 200,000    |
| 予備費        | 0          | 0          | 150,000    |
| 支出小計       | 1,716,000  | 1,597,929  | 3,323,000  |
| 特別会計繰出金(注) | 2,500,000  | 2,317,000  | 422,000    |
| 特別会計から戻入   | 0          | △ 407,684  | 0          |
| 支出合計       | 4,216,000  | 3,507,245  | 3,745,000  |
| 次年度繰越金     | 8,466,016  | 9,264,491  | 7,319,591  |
| 支出の部 合計    | 12,682,016 | 12,771,736 | 11,064,591 |

(注) H16年度は、55周年記念事業特別会計

H17年度は、経友会講座特別会計

### 「情報発信力を鍛えるために」

昨年11月のホームカミングデーに、母校に久々にじっくり立ち寄りました。素晴らしい先生方、友人と過ごした、充実した日々が胸によみがえります。私は、卒業後、記者として17年、大阪や東京を拠点に取材を続け、ここ数年は大阪の経済部に所属しています。それにもかかわらず、産官学連携や大学ベンチャーなど、経済ニュースの宝庫でもある市大を、「久しぶり」と思うことこそが、市大の課題ではないかとも感じました。思えば、地元・大阪ですら、市大の情報は乏しい。大阪市の南端という、立地の不利はありますが、市内唯一の総合大学としては、影が薄い。近年、都市の活性化に、大学の役割が再評価される中で、チャンス逃す懸念もあります。



大学間の競争は激しくなるばかりです。私が仕事で体験しただけでも、市大は、特に事務対応などで、ほかの国公立、私大に比べ、情報発信力に大きな差をつけられています。価値ある情報を読者に提供したいと考えつつも、私もなかなか足が向かない。それは「関西」の情報発信力の低下と似ています。経済低迷は続きましたが、関西は蓄積もあります。新しい挑戦も進みつつある。ただ、それらは東京では驚くほど知られていません。関西にとって本当に必要な政策が打ち出されることが少なくなったのも、情報発信を二の次にしてきたことが響いていると思います。

4年前、取材で訪れたフィンランドは、情報発信にかける熱意にあふれていました。取材した技術庁（広報担当者は若い女性でした）からは、今でも毎月のように、新たな取り組みや施策を満載した電子メールや冊子が送られてきます。英語が母国語でないハンディーは日本と同じですが、世界を相手に仕事する気概が伝わります。人口520万人という小国が、世界経済フォーラムの競争力ランキングで1位（日本は12位）を続けるのも、このような工夫が支えているのでしょう。市大の、そして関西の情報発信力を鍛えることも、まずは、一人ひとりの熱い思いから始まることを、自戒も込めて感じています。

(読売新聞大阪本社経済部 戸田博子 平成元年＝1989年卒業)

# 初回の経友会講座 12名の講師が熱弁ふるう!

## 大好評!毎回250名を超す受講者

前号でご案内しましたように平成17(2005)年度後期の単位講座(対象文系全学部生及び一般市民)として経友会提供の「産業経済論特殊講義2(経友会講座)」が無事終了しました。履修登録者は669人で内訳は、経済学部1部60%、同2部13%、商学部12%、法学部7%(1・2部)、文学部3%、一般聴講生5%でした。講義は法学部棟730教室(定員289人)で行われ、毎回250~350名の出席者で大盛況でした。学部事務局のお世話で用意された当日のレジメ400部(当初350部)はすべて無くなるという状況で、期末試験の受験者も469人と73.9%にのびりました。ここに各講義の概要を掲載させていただきましたが、紙面の都合上かなりはしょった内容しかお伝えできないのが残念です。



### 第1回2005年10月6日

## 「戦後日本の産業と経営の変遷」

久保氏は、本講座開講の立役者としてトップバッターの重任を引き受け、経友会が提供するに至った経緯と意義を説明し、産業界の戦後の歩みを自身の体験などを交えながら総論的に解説された。南海電鉄入社後配属された労務担当者時代に学生と社会人のギャップを痛感した苦労話や、経営者として取り組んできた、関西空港開港にむけた空港特急ラピートと第1次難波再開発当時の実情、裏話などをわかりやすく講義された。



講師:久保 勇氏  
〔昭和32年経済学部卒〕

(経友会副会長、  
KBC総研株式会社 代表取締役、元南海電鉄)

### 第2回2005年10月13日

## 「日本製カメラの競争優位の構築」

竹内氏は、アメリカにおける消費者情報誌「コンシューマーレポート」などの多様な視点から、データを用いて、戦後の歴史的な背景や、アメリカ・ドイツ製品との熾烈なシェア競争に打ち勝った日本カメラ産業の成功の秘訣を分析され、「安かろう悪かろう」から「安くて良い」製品へと脱却し、世界ブランドを構築するに至った一眼レフメーカーの歩みをわかりやすく解説された。



講師:竹内 淳一郎氏

〔平成9年社会人大学院経済学研究科卒〕  
(日本大学経済学部カメラ産業研究会、元ミノルタ)

### 第3回2005年10月20日

## 「情報産業の発展過程と現状及び将来の課題」

辻本氏は、ドラッカー教授の説である21世紀のIT大革命による変貌と、「もの」から「こと」、「所有」から「利用」への変化を具体例により説明され、宇宙的な大局的考え方がこれからの社会には重要であり、変化をチャンスと捉えた創造力と果敢にチャレンジする行動力の必要性を力説された。間近になった「ユビキタスネットワーク」を企業も個人も有効に活用しうるか?それには「個」をどう確立するかが問われており、高い志と誇りを持ってと激励された。



講師:辻本 敏彦氏  
〔昭和43年経済学部卒〕

(株式会社ビーティーキュー 取締役社長、  
元東芝情報機器)

---

第4回2005年10月27日

## 「環境問題の現状と企業の取り組み」

渡部氏は、我が国の環境基本計画における地球温暖化問題や廃棄物問題、有害化学物質問題、大気汚染問題、水循環問題、自然環境問題について総括的に説明された上で、地球規模に拡大している環境問題に対する企業の社会的責任のあり方と現状を報告された。環境と経営の両立の具体的なツールである環境に関する取り組み内容や方針、目標などを公表する環境報告書や環境会計などを一元的に示す環境経営指標などについて自社の例で具体的に説明された。



講師:渡部 徳博氏  
〔昭和51年経済学部卒〕  
(大阪ガス株式会社  
環境部地球環境チーム マネージャー)

---

第5回2005年11月1日

## 「軽自動車の果たした役割と今後の展望」

面田氏は、自動車産業の現状と日本だけの分類である軽自動車の発展経緯とその特性、競争関係を、データや図表も交えてわかりやすく解説された。とくに軽自動車について、性能や安全性、快適性の面で普通車にそん色のないところまできており、技術面でも、省スペースや軽量化、高効率化・低エミッションなど自動車産業全体に大きく貢献している点を強調。最後に同氏は、組合役員から全国最下位の赤字販社「京都ダイハツ」社長に復職、初めての営業現場で累積赤字を解消し同社を黒字会社に導いた経験を基に、左遷という消極的な捉え方をせず、前向きなチャンスと捉えて頑張るよう後輩達を激励された。



講師:面田 真一氏  
〔昭和43年経済学部卒〕  
(ダイハツ工業株式会社 理事)

---

第6回2005年11月17日

## 「鉄鋼業の現況と今後の課題」

橋本氏は、戦後の我が国鉄鋼業の発展過程を振り返って、現在の新日鐵・住金・神鋼グループとJFEグループへの業界再編と得意とする高い技術力が要求される高級鋼材の需給逼迫が、ここ数年の活況につながっていること。また汎用鋼材では、中国の生産量の急増が世界シェアに大きな影響を与えており、今後は中国の総合的な技術力向上が我が国鉄鋼業界の行く末の鍵を握ってくると分析された。鉄鋼業は巨大な装置産業であり、環境面を含めた技術力優位を死守することが最大の課題と述べられた。



講師:橋本 純氏  
〔昭和50年経済学部卒〕  
(住友金属プラントック株式会社 営業企画部長)

---

第7回2005年11月24日

## 「日本の港湾制度とその課題」

有田氏は大阪港埠頭公社在籍の経験を基に、大阪港の貨物取扱量が年間約93百万トンで全国第7位(第1位は名古屋港約172百万トン)に過ぎず、コンテナ貨物量を示すTEU(20フィートコンテナ換算単位)で見ても、東京約340万TEU、横浜約260万TEU、名古屋及び神戸約190万TEUで、大阪は約170万TEUに過ぎないことや、一方上海港は約1500万TEUで、ほぼ日本全体の取扱量に匹敵することを図表などで説明された。この背景には、中国などアジア諸国の貨物急増による地位低下と日本の港湾料金の高さによると指摘された。



講師:有田 正文氏  
〔昭和50年経済学部卒〕  
(大阪市 経営企画室 担当部長)

第8回2005年12月1日

## 「金融改革と銀行の変遷」

澤田氏は、再生をかけた「りそな銀行」の支店長の立場から、バブル期の銀行が業績偏重主義とコーポレートガバナンスの欠如によってバブル経済にのめり込んでしまったと分析、その後金融庁による債務者格付けや不良債権分類の統一基準ができたが、資産を持たない企業が良い格付けになるなどの矛盾点も大きく、とくに中小企業などにおいては財務体質が優先される為、支店長はその社長の人柄や経営方針、成長性を加味した融資ができなくなるなどの課題を指摘された。



講師:澤田 哲生氏  
〔昭和51年経済学部卒〕  
(株式会社トア 常務取締役、元りそな銀行)



講師:齋藤 敏宣氏  
〔昭和51年経済学部卒〕  
(元京阪電鉄)

第9回2005年12月8日

## 「関西私鉄の模索～21世紀への展望」

齋藤氏は、関西私鉄の創業から今日までの変遷を経営的側面から図表や写真を使って説明。とくにJR誕生とバブル崩壊が関西私鉄にもたらした旅客の減少傾向の分析を通して、関西私鉄のそれまでの経営モデルが破綻したことによる今後の課題と展望について、ICカード戦略(マーケティングから沿線顧客ニーズを掘り起す)を中心に説明された。最後に多様な事業分野を抱える私鉄の強みをどう活かせるかが、今後のM&Aを含めた経営戦略だと強調された。

第10回2005年12月15日

## 「エレクトロニクス多国籍企業の産業再編」

高田氏は、松下スウェーデン支社長の経験を踏まえて、バリューチェーンのIBMや単業型のノキアなどを例にとり、日本企業の多角化経営の再考が迫られていると指摘。技術戦略による事業・産業再編は、自動車部品やLCD、半導体等に見られるデバイスの特化であると強調。ナノテク活用による40時間稼動パソコンや500km走行できる燃料電池が出現しつつあり、今後も開発・イノベーション、国際標準化、プロパテントの一体戦略が重要と述べられた。



講師:高田 雄司氏  
〔平成9年社会人大学院経済学研究科卒〕  
(福山大学経済学部 学科長・教授、元松下電器)



講師 島村 幸光氏  
〔平成10年 大学院経済学研究科卒業〕  
(YSソリューション代表、元(株)エー・エム・ピー・エム・近鉄)

第11回2005年12月22日

## 「小売業の業態進化論」

島村氏はコンビニエンスストア(CVS)の基本原理は、CVS本部と加盟店とのFC契約により加盟店は本部に加盟金、保証金、ロイヤリティを支払い、本部から事業執行権と経営ノウハウ提供を受けるビジネスモデルに尽き、その根幹には商品開発力の革新、物流システムの高度化、先端技術に裏打ちされた情報システムネットワークによる「サプライチェーンマネジメント」が精緻に運用され、これらによってCVSのトップ企業は、NO.1の収益力を獲得してきたと説明。とくにIT技術を活用した金融、郵政、行政サービス等の取扱いによるCVSの新たな進化には将来更なる広がりの可能性を予感させると述べられた。

第12回2006年1月12日

## 「日本の繊維産業の変遷について」

高木氏は、日本の紡績業の沿革と展望について、多くのデータ・資料を用い、豊かな経験も交えて、次のように熱っぽく語られた。明治中頃に誕生した紡績業は、資本・労働面を充足して大阪で急速に発展、第一次大戦後はトップの英国綿布を凌ぎ、基幹輸出産業となった。一方、軽化学工業的な絹糸も大正末期から昭和初期にかけて伸張してその地歩を固め、第二次大戦後は朝鮮戦争特需の『ガチャ萬景気』で戦後復興を牽引し、重化学工業としての人絹糸業へと変身して行く。その後、円高の趨勢に押されて繊維産業は衰退の道をたどってきたが、合繊の長繊維と織物は今なお、国際競争力を有している。今日ではナノテク、バイオ等の技術により、繊維産業は、製品の高機能化や新産業の開拓により、“かつての輝き”を取り戻し、新時代を迎えている。



講師:高木 健次氏  
〔昭和30年経済学部卒〕  
(高木経営研究所 代表、元東洋紡)

## 平成19年度以降の講師を大募集! 母校であなたの会社人生を伝授して下さい!!

この講座は、以前にもお伝えしましたように平成21年度まで開講することが決まっています。運営を担当している「経友会講座委員会」では、講師のリクルートに日々苦勞が絶えません。現在事務局員が手分けをしてできるだけ幅広い産業界の方々にお声を掛けさせていただいておりますが、講師探しは、なかなか難しい状況です。

この講座の目的は、「各産業で活躍されている卒業生の経験や知識を母校の学生に伝える」とことと「OB・OGの皆様と現役学生をつなぐ紐帯の役目を果たす」ことで、母校のネットワークを強化していきたいと念願しております。ぜひ趣旨をご理解いただき今回の各講義概要をご覧のうえ、学部にかかわらず自薦・他薦を問いませんので事務局までご一報いただければ幸いです。

☆経友会講座へのお問合せ、ご連絡は☆

経友会メールアドレス: [keiyukai@econ.osaka-cu.ac.jp](mailto:keiyukai@econ.osaka-cu.ac.jp)

事務局:有田正文 (S50卒) 大阪市役所勤務 (自宅) 06-6576-6138 (FAX兼用) [aritam@krf.biglobe.ne.jp](mailto:aritam@krf.biglobe.ne.jp)  
齋藤敏宣 (S51卒) (株)スカイ・コナ 06-6945-5789 [t-saito@sky-cona.co.jp](mailto:t-saito@sky-cona.co.jp)

産業経済論特殊講義2 木曜第5時限 (午後4時20分~午後5時50分) 担当 経済学部 教授 佐々木信彰 (敬称略)

| 日程      | 内容                  | 担当者   | 経済卒   | 職歴                            |
|---------|---------------------|-------|-------|-------------------------------|
| 1 10.06 | 戦後日本の産業と経営の変遷       | 久保 勇  | 昭32   | KBC総研(株) 代表取締役 元南海電鉄          |
| 2 13    | 日本製カメラの競争優位の構築      | 竹内淳一郎 | 社院平9  | 日本大学経済学部カメラ産業研究会 元ミノルタ        |
| 3 20    | 情報産業の発展過程と現状及び将来の課題 | 辻本 敏彦 | 昭43   | (株)ピーテュー 取締役社長 元東芝情報機器(株)     |
| 4 27    | 環境問題の現状と企業の取り組み     | 渡部 徳博 | 昭51   | 大阪ガス(株)環境部地球環境チーム マネージャー      |
| 5 11.1  | 軽自動車の果たした役割と今後の展望   | 面田 真一 | 昭43   | ダイハツ工業(株) 理事                  |
| 6 17    | 鉄鋼業の現況と今後の課題        | 橋本 純  | 昭50   | 住友金属ブランチック(株) 営業企画部長          |
| 7 24    | 日本の港湾制度とその課題        | 有田 正文 | 昭50   | 大阪市役所経営企画室 担当部長               |
| 8 12.01 | 金融改革と銀行の変遷          | 澤田 哲生 | 昭51   | (株)トーア 常務取締役 元りそな銀行           |
| 9 12.08 | 関西私鉄の模索-21世紀への展望-   | 斎藤 敏宣 | 昭51   | 元京阪電鉄                         |
| 10 15   | エレクトロニクス多国籍企業の産業再編  | 高田 雄司 | 社院平9  | 福山大学経済学部 学科長・教授 元松下電器         |
| 11 22   | 小売業の業態進化論           | 島村 幸光 | 社院平10 | YSソリューション 代表 元(株)イーエム・ピーエム・近鉄 |
| 12 1.12 | 日本の繊維産業の変遷について      | 高木 健次 | 昭30   | 高木経営研究所 代表 元東洋紡               |
| 13 19   | 復習編                 | 竹内淳一郎 | 社院平9  | 第2講と同じ                        |

## <経友会からのお願い!>

### ○ぜひとも会費のご納入を

会費をご納入いただきまして誠に有難うございます。経友会は皆様の会費収入で運営しております。平成17年度(平成17年6月から平成18年5月)の会費が未納の方は、同封の振込み用紙でご納入下さいますようお願い致します。

### ○ご連絡先不明の会員の方ご存知ですか?

宛先不明でニュースが返送される方が増えております。経友会名簿の訂正をしたいと思いますので、もしクラブ、ゼミやご同期の友人で納入者一覧にお名前の記載がない方の現在のご住所連絡先をご存知の方は、ご一報いただけませんか?会員の皆様の個人情報につきましては、事務局が責任をもって管理しておりますのでご理解願います。

## 「東京同窓会」だより

東京では、有恒会東京支部OB会や平成9年頃からスタートした若手現役中心の異業種交流会主体の「銀座有恒会（発起人：山路氏S43法卒、世話役：長村氏・若尾氏、登録者290名）」があり、経済学部ではS43年卒の「東京よさん会（同34名）」があります。それぞれ多様な活動を行っていますが、今回は、「銀座有恒会」と「東京よさん会」についてご紹介いたします。

昨年11月24日に日立金属高輪 和彊館で開催された、「銀座有恒会」には約50名が参加し、辻本氏が「経友会特別講座紹介」ということで講義当日のパワーポイントを要約したもので講義内容を披露、参加者にも母校の教壇にと呼びかけられました。また理工系の方々も参加されており、「健康管理：心筋梗塞・前立腺癌早期発見法等」についても報告され、大いに盛り上がりました。この会では、鉄道SLの旅や酒蔵巡りなど半年1回の例会以外にも様々な特別企画があります。



一方「東京よさん会」は、昨年12月16日に東レ社員クラブで20名が参加して開催され、参加者の近況報告や2テーマのレジメ報告などがあり、時間超過するほどの盛況ぶりでした。現在は経済学部のみならず法学部3名、商学部2名も参加され、得意技を活かし合ったコラボレーションを目指して、最低年2回以上の例会を開催しています。また最近海外駐在からの帰国者や把握されていなかった在京者の初参加もあります。望郷・望学の念が年齢とともに増しているからでしょうか。



## 香林坊雑感 「金融業と数学」

皆様、初めまして。私、香林坊と申します。コラムを書かせて頂くことになりました。少しお付き合い願えますと幸いです。

小生、金融業界の片隅で、日々の糧を得ておりますが、最近はとみに覚えることが多く、知恵熱が出そうな毎日が続いています。というのも、金融機関に対する規制や、金融商品の中身に、これでもかっ!というくらいに、数学が出てくるからなのです。ご存じない方は、一度大型書店の金融実務のコーナーを御覧あれ。少し分厚い本のページをめくれば、どうか大学の講義でお別れしたいと思っていた、 $\Sigma$ やら $\sqrt{\quad}$ やら、微分積分やらがどんどん登場するのであります。

「そんなことは昔からそうだ。君はマクロ経済学や金融論、有価証券論を学ばなかったのかね」というご指摘が諸先輩方からありそうですので、少し言い訳を。

例えば、昨年暮れに金融庁が公表した金融機関に対する新たな監督方針（いわゆる新BIS規制の適用に関係するものですが、また次回以降に詳しく説明します）をみてみましょう。すると、金融機関に対する監督指標の一つとして、数学的手法を用いてシミュレーションされた、一定確率で発生する最大損失額「バリュアットリスク」が堂々と登場しています。すなわち、極端に言えば、我が国金融業界では、監督側も監督される側も、こうした数学的なシミュレーション手法の理解が当然、という前提に立っている訳です。ほんの十数年前まで、有価証券運用やデリバティブ業務を除いて、こうした数学が、金融実務や金融機関規制に直結することは考えにくかったと思います。

それでは、この背景は何でしょうか。また「バリュアットリスク」ってどんなモノなのでしょうか……(続く)

## 編集後記

新年号として発行すべきところ、経友会講座に追われ結局3月になってしまったことを深くお詫びいたします。10号はその代わりと言ってはなんですが、講義レポートを掲載しこれまでの経友会ニュースのスタイルを一新しました。会員の皆様の忌憚のないご意見ご要望をお待ちしております。（編集委員一同）

街なかの我が家にもめじろが姿をみせ、梅の花が散る頃には山に帰ります。無事ですごせよと案じます。（Y. I）

ようやく仕事に復帰できる目途がみえてきました。猛烈な冬将軍から柔らかな陽射しが待ち遠しく感じます。（失業男）

4月から市大は独立法人になります。国立大学や私学に打ち勝つ経営を期待しています。（周游嵐）

今回号より金沢から参加ですが、よろしくお願ひします。（K. M）

今年は大厄の年、でも前厄の去年に充分「たいがいな」目に遭ってるのもう何もなさそうな予感、楽観的でしょうか（み）